

産地パワーアップ事業
~~都道府県事業計画書~~
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書

事業実施年度 平成28(西暦2016)～令和2(西暦2020)年度

都道府県名 秋田県

産地パワーアップ事業
都道府県事業計画書
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書

都道府県名 秋田県

1 産地パワーアップ計画

(1) 生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減

(平成28年度)

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状						目標						事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位					
秋田市農業再生協議会	2	南雄和	水稻	水稻の大規模化の推進 ①乾燥調整施設を整備し、農地の集約化により、低コスト化	生産コストの10%以上の削減 (10.6%削減)	102,729円/10a	150 ha	815,700 kg	91,867円/10a	150 ha	864,000 kg	89,567円/10a	111.6 ha	759,416 kg	組合員の確定申告書類等により、生産コストを把握	121.2	乾燥調整施設を整備したことにより、コストの削減につながり、目標を達成できた。ただし、計画に対しての利用面積として達成しておらず、さらなる利用率の向上に努めること。	乾燥調整施設の利用、農地集積により低コスト化が図られ、成果目標が達成された。				
男鹿市農業再生協議会	1	五里合基盤整備地区	水稻	水稻の大規模化の推進 ①基盤整備事業による大区画化 ②法人への農地集積による作業の効率化 ③基盤整備地区の中心地にミニライズセンターを新設し、水稻部門の作業の効率化	生産コストの10%以上の削減 (10.4%削減)	102,729円/10a	73 ha	394,200 kg	92,059円/10a	73 ha	438,000 kg	87,035円/10a	51.7 ha	230,100 kg	法人の販売データより、当該地区の生産コストを把握	147.1	昨年で面工事が完了し、今年は全面積で耕作ができることから、計画通りの稼働を目指し利用率の向上に努めること。	乾燥調整施設の利用、農地集積により低コスト化が図られ、成果目標が達成された。				

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

(平成28年度)

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状						目標						地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)		補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考			
						年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位								生産コスト 単位	事業実施 前年度 単位	目標年度 単位
鹿角地域農業再生協議会	1	十和田開拓	大豆	遊休農地を活用した収益性の高い大豆団地の形成を推進 ①高性能機械化一貫体系の導入による労働効率向上で、作付面積を大幅に増加させる大規模経営の取組 ②遊休農地の活用、減農薬栽培の実施	販売額の10%以上の増加 (20.4%増加)	12,399円/10a	107 ha	125,024 kg	106 円/kg	-	14,929円/10a	126 ha	161,664 kg	117 円/kg	-	6,332円/10a	151 ha	82,795 kg	115 円/kg	-	13,463 円/kg	9,180 円/kg	1.467	9,289円/10a	法人の取引データより販売額を把握	-122.9	収穫時期の降雪により収量が大幅に減少した結果、販売額が目標を達成出来なかった。収穫時期と降雪時期を的確に見極める他、栽培技術の向上が課題となっている。高冷地の特性に適した品種選定を行い、気候や土壌環境に適した栽培・生産技術を早急に確立し、生産の安定化に結びつけるよう指導した。	作付面積は拡大しているが、収穫前の降雪により生産量が減少していることから、品種構成を含めた栽培体系の検討や適期刈り取りなど適正な栽培管理の徹底を指導する。	
能代市農業再生協議会	1	鶴形	ねぎ	野菜産地の形成の推進 ①水稻依存の営農体系からの脱却をめざし、水稻と園芸作物との複合経営の取組 ②高性能機械や育苗施設等の導入による省力・低コストによる生産の取組 ③県内トップシェアを誇るねぎの全国ブランド化に向けた高品質・安定供給の取組を推進	販売額の10%以上の増加(総販売額) (10.0%増加)	72,839千円	9.6 ha	244 t	298 円/kg	-	80,123千円	11.5 ha	269 t	298 円/kg	-	87,727千円	12.8 ha	234 t	374 円/kg	-	323 円	335 円	0.964	84,365千円	JAねぎ販売データより当該地区の販売額を把握	158.2	白神ブランドの認知度向上により、H29に引き続き、単価が堅調で、H30の販売目標は達成できた。 一方、天候不順による生育遅れで、収穫作業が後半にずれ込んだため、秋冬ねぎで一部未収穫圃場が発生したため、反収が低下している。 秋冬作型の面積配分を見直し、降雪前に余裕をもって収穫終了できるよう指導した。	全国的に販売単価は上昇傾向にあるが、当該地域では、市場ニーズが高単価が高いA・L2本結束の規格での出荷に取り組んでいる。このことが、成果目標達成の要因となったものと考えられる。 他方で、収穫作業が遅れ、降雪により一部収穫できなかったことなどから、事業実施前に比べ単収が低下した。未収穫圃場の発生による単収減を防ぐために、秋冬ねぎの作型配分を見直し、無理のない出荷・播種計画を作成するよう指導する。	
八峰町農業再生協議会	1	峰浜	大豆	転作物をそばから大豆に転換することにより、収益性の高い大豆団地の形成を推進 ①土地利用集積による大豆団地の形成 ②高性能機械化一貫体系の導入による労働効率向上で、作付面積を大幅に増加させる大規模経営の取組	販売額の10%以上の増加 (20.7%増加)	5,966円/10a	143 ha	128,700 kg	69 円/kg	-	7,200円/10a	143 ha	171,600 kg	60 円/kg	-	3,120円/10a	143 ha	74,360 kg	60 円/kg	-	13,463 円/kg	9,180 円/kg	1.467	4,577円/10a	現状値は、JAのそばと大豆販売データ(加重平均)より、また、目標値はJA大豆販売データより、当該地区の販売額を把握	-112.6	現状の平成27年度と実績の平成30年度を比較すると大豆の作付けが増加しているものの、平成30年度大豆は不作であったことから生産量が減少し、販売単価も低下した。排水の悪い圃場に暗きよを実施し、多雨年の低収を回避できるよう指導する。	取組主体では、そばから大豆への作付転換が行われ大豆の作付面積が増加し、大豆団地の形成・機械化一貫体系の導入が図られた結果、販売額の増加に繋がった。一方で、産地全体では、台風の影響で落葉が早まり、小粒化につながるなど生産量が減少し、販売額が減少した。 気象災害の影響を極力小さくするため、排水・湿害対策など、適正な栽培管理の徹底を指導する。	

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標															地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)		補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考			
					現状					目標					実績					事業実施前年度	目標年度										
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	単価	単価										
秋田市農業再生協議会	1	豊岩前郷	大豆	収益性の高い大豆団地形成 ①土地利用集積により大豆団地を形成し、大豆栽培面積を拡大して、生産量確保 ②面積拡大に伴い、作業の効率化に必要なトラクターを導入し、適期に栽培管理作業を行うことにより、単収の増加 ③秋田県大豆指導指針による土づくりを實踐し、品質の向上及び生産の安定化	販売額の10%以上の増加 (10.1%増加)	27	6,513円/10a	24.2 ha	5中3平均(H23~H27) kg/10a 115	5中3平均 円/10a 6,513	-	30	7,172円/10a	25 ha	138 kg/10a	7,172 円/10a	-	30	10,208円/10a	21.5 ha	172 kg/10a	10,208 円/10a	-	10,699 円/60kg	9,180 円/60kg	1.165	11,892 円/10a	816.2	機械導入により作業効率化を図り、適期作業が行われたことにより、単収が向上した。	大豆団地の拡大、集約化により適期作業が行われ、生産量が拡大したことから、成果目標を達成することができた。	
	2	(雄和左手子・向野)南雄和	大豆	収益性の高い大豆団地形成 ①土地利用集積により大豆団地を形成し、大豆栽培面積を拡大して、生産量確保 ②面積拡大に伴い、作業の効率化に必要なトラクターを導入し、適期に栽培管理作業を行うことにより、単収の増加 ③秋田県大豆指導指針による土づくりを實踐し、品質の向上及び生産の安定化 ④乾燥調整施設を整備し、農地の集約化により、低コスト化	販売額の10%以上の増加 (16.3%増加)	27	9,288円/10a	23.4 ha	5中3平均(H23~H27) kg/10a 171	5中3平均 円/10a 9,604	-	30	10,800円/10a	24.4 ha	199 kg/10a	10,753 円/10a	-	30	10,604円/10a	47.8 ha	178 kg/10a	10,604 円/10a	-	10,699 円/60kg	9,180 円/60kg	1.165	12,354 円/10a	202.8	機械導入により作業効率化を図り、適期作業が行われたことにより、単収が向上した。	大豆団地の拡大、集約化により適期作業が行われたことにより、成果目標を達成することができた。	
由利本荘地域農業再生協議会	1	由利本荘市・にかほ市	りんどう	収益性の高い花き団地等の形成 ①個々の農家の生産拡大、新規取組、メガ団地、サテライトの形成による生産振興の取組	販売額の10%以上の増加(総販売額) (138.8%増加)	27	204,316千円	13.7 ha	4,816 千本	42.4 円	-	30	283,500千円	21 ha	6,300 千本	45 円	-	30	252,660千円	19.2 ha	5,325 千本	47.4 円	-	43 円	47 円	0.9149	230,924 千円	33.6	りんどう・菊類ともに販売単価については目標値を上回っており、栽培技術の向上が伺えるが、面積および単収の伸びが足りず、目標に対する価格補正後の実績は低水準に留まった。 取組主体である秋田りんどう・菊類同組合をはじめとする関係機関と連携し、鳥海地域の園芸メガ団地および個々の農家の生産拡大又は新規取組を推進し、生産基盤の拡大を図る。また、りんどうについては、作付年数が長いほ場において改植を推進することにより、単収のさらなる向上を図る。	りんどう・菊類ともに作付面積は拡大したものの、台風の影響により歩留まりが低下し、出荷量が伸びなかったため、目標販売額に届かなかった。 台風に対しては、防風ネットの設置や硬化資材を活用し被害軽減を図るほか、病害虫の適期防除を指導することで、歩留まりを改善し単収向上を図る。また、りんどうについては、作付年数が長いほ場において改植を推進することにより、単収のさらなる向上を図る。	
			菊類	②真空予冷設備(りんどう)、予冷施設(菊類)の整備による高品質花き出荷の取組	販売額の10%以上の増加(総販売額) (173.2%増加)	27	99,093千円	13.1 ha	2,524 千本	小菊 37.6円 輪菊 52.7円	円	-	30	171,635千円	24.1 ha	4,512 千本	小菊 37.0円 輪菊 53.0円	円	-	30	111,557千円	17.7 ha	2,475 千本	小菊 44.4円 輪菊 61.3円	円	小菊 41円 輪菊 60円	小菊 44円 輪菊 69円	小菊 0.9318 輪菊 0.8696	103,565 千円	6.2	
大仙市農業再生協議会	1	下黒土	大豆	大豆産地の形成の推進 ①個人から法人への大豆作業の集約を推進 ②団地化の拡大による高収益の取組を推進	販売額の10%以上の増加 (10.0%増加)	27	11,914円/10a	0.48 ha	570 kg	100 円/kg	-	30	13,106円/10a	32 ha	41,696 kg	100 円/kg	-	30	16,001円/10a	38.6 ha	103,560 kg	60 円/kg	-	13,463 円/60kg	9,180 円/60kg	1.467	23,473 円/10a	969.7	面積の拡大により、目標を達成することができた。ただし、販売単価は目標には至らなかったため、栽培技術の向上に努めるよう指導していきたい。	大豆団地の拡大、集約化により適期作業が行われ、生産量が拡大したことから、成果目標を達成することができた。	

(平成28年度) 続き

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標															地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方 法(※定量的な検 証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考				
					現状					目標					実績					事業実施 前年度	目標年度											
					年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位										単 位	単 位		
大仙市 農業再 生協議 会	2	中 仙	トマト (施設)	ジュース加工施設 整備による生産量 拡大と農家所得の 向上	販売額の 10%以上の 増加 (56.6%増 加)	27	1,572,210円/10a	5.2 ha	297,589 kg	275 円/kg	-	30	2,462,400円/10a	5.2 ha	499,200 kg	256 円/kg	-	30	2,771,250円/10a	5.2 ha	401,228 kg	360 円/kg	-	275 円/kg	360 円/kg	0.764	2,117,235 千円/10a	61.2	天候不順及び栽培面 積の増加等により、目 標販売額に届かなか った。	トマト(露地)は、事 業実施前より単収が向 上したものの目標達成 には至らなかった。梅 雨時期の天候不順や、 梅雨明け後の高気温 により生産量が落ち やすいため、季節の 切り替わり時における 肥培管理の徹底を指 導する。	トマト(露地)は、 面積拡大により生産 量は伸びたものの、 収穫時の労働力が追 いつかず、目標達成 に至らなかった。分 散したほ場を集約し 作業効率を上げるこ とで単収向上につな がるよう指導してい く。	トマト(露地)は契 約栽培
			トマト (露地)	①トマトを主原料 とするジュース加 工施設の整備 ②水稲から園芸作 物(トマト、メロ ン)への品目転換 ③加工用トマトの 作付けによる販売 額の拡大	販売額の 10%以上の 増加 (177.2% 増加)	27	154,207円/10a	0.6 ha	57,204 kg	39 円/kg	-	30	427,500円/10a	3 ha	285,000 kg	45 円/kg	-	30	185,701円/10a	3.6 ha	149,167 kg	45 円/kg	-	- 円/kg	- 円/kg	-	-	11.5	基本技術の指導のほ か、適期作業のため の作業の効率化等の 指導に努める。	メロンは、開花時期 に低温・日照不足と なり着果不良となっ たことにより減収し 、着果管理を徹底 し、確実に玉数を確 保するよう指導す る。なお、当産地 では水稲からの園芸 作物(露地トマト)へ の転換が進んでお り、露地トマトの 販売額が拡大してい る。H27年度 925千 円 → H30年度 6,685 千円		
			メロン (露地)		販売額の 10%以上の 増加 (270.8% 増加)	27	98,167円/10a	0 ha	0 kg	0 円/kg	-	30	364,000円/10a	0.5 ha	13,000 kg	140 円/kg	-	30	143,681円/10a	0.2 ha	1,533 kg	150 円/kg	-	140 円/kg	150 円/kg	0.933	107,310 円/10a	3.4	面積及び販売額の 現状値は、生産実 態が無いためゼロ 。目標値は、加工 施設整備後の生産 予定面積及び価格			
大仙市、仙 北市、 美郷町	3	大仙市、仙 北市、 美郷町	枝豆	枝豆産地の形成の 推進 ①水稲から枝豆へ の作付転換の取組 ②高性能機械化一 貫体系による労働 効率向上で作付面 積を大幅に増加さ せる取組	販売額の 10%以上の 増加 (13.8%増 加)	27	167,242円/10a	180 ha	587,932 kg	580 円/kg	-	30	190,323円/10a	245 ha	859,600 kg	542 円/kg	-	30	177,433円/10a	174 ha	507,530 kg	608 円/kg	-	580 円/kg	608 円/kg	0.954	169,177 千円/10a	8.4	長期的な高温・干ば つにより、中生種が お盆頃にかけて著 しく収量が低下し た。また、品質・収 量性が評価の高い 「あきたほのか」 の後半と「ダイズサ ヤタマエ」は、えだ まめの最重要害虫 であり、試験研究 機関と連携し、効 果的な防除方法の 確立・普及を図る。 また、H29年度には 大雨の影響により、 収穫面積が大きく 減少したことから 作付拡大の動きが 鈍化した。関係機 関と連携してほ場 の排水対策を指 導していくことで、 作付拡大を図って いく。	J A 枝豆販売 データより、当 該地区の販売額を 把握(現状値は、 直近年となる H28年を基準とし ている)		
美郷町 地域農 業再生 協議会	1	美郷町	大豆	大豆産地の形成の 推進 ①土地利用集積や 作業委託による 中心的な経営体 への農地集積の取 組 ②収益性の高い 大豆産地の形成 の取組	販売額の 10%以上の 増加 (10.0%増 加)	27	12,825円/10a	424 ha	886,160 kg	61.36 円/kg	-	30	14,108円/10a	650 ha	1,358,500 kg	68 円/kg	-	30	11,800円/10a	603 ha	1,026,360 kg	56 円/kg	-	13,463 円/kg	9,180 円/kg	1.467	17,311 円/10a	349.6	面積については拡大 しているものの、 反収については 低下した。単価に ついては前年度 より下がった。 販売額も伸びな かった。 引き続き各機関 より指導をいた す生産量及び 単収の向上を 目指す。	J A 大豆販売 データより、 当該地区の 販売額を把握		
横手市 農業再 生協議 会	1	横手市 及び美 郷町金 沢地区	果樹 (りんご、 ぶどう)	選果施設(機器) 導入による選果 品質向上と高 品質製品の 販売(りんご) ①集出荷施設 の機能強化の 取組 果樹(りんご、 ぶどう)、野菜 (トマト) ②ジュース加 工場の能力増 強、生産物の 高付加価値化 による生産者 所得の向上	販売額の 10%以上の 増加 (29.7%増 加)	27	142,853円/10a	672.9 ha	4,962 t	193.7 円/kg	-	30	185,344円/10a	673.5 ha	6,359 t	196 円/kg	-	30	177,191円/10a	629.3 ha	5,286 t	211 円/kg	-	りんご 282 円 ぶどう 816 円	りんご 292 円 ぶどう 1,041 円	りんご 0.966 ぶどう 0.784	166,650 円/10a	56.0	りんご・ぶどう共に 単価は順調に推移 したが、単収が下 回ったため目標 を達成できなかった。 原因としては、 台風や夏場の高 温障害による結 実不良やばらつき が生じた。今後は 、人工授粉によ り確実に着果さ せるよう指導す る。 JAや生産部会と 連携し、収量確 保に努めた。 ■目標単収(実 単収) りんご969(891) kg/10a ぶどう775(494) kg/10a	J A りんご、ぶ どう販売データ より、当該地区 の販売額を把握		
			トマト		販売額の 10%以上の 増加 (18.4%増 加)	27	1,666,942円/10a	10.3 ha	574 t	299.1 円/kg	-	30	1,973,328円/10a	12.2 ha	792 t	304 円/kg	-	30	2,651,712円/10a	6.2 ha	462 t	355 円/kg	-	343 円	338 円	1.015	2,690,938 円/10a	334.2	全国的に単価が 高値の中、品質を 高める取組とな った。	トマトは、加工 工場の能力が増 強したことで、 全体(生食用・ ジュース用)の トマト出荷量が 伸び、目標達成 につながった。 一方で高齢化 による栽培や作 付規模が減少し たこと、産地全 体の作付面積が 減少しているこ とから、新規作 付者確保、産地 としての生産量 を維持確保して いくよう指導す る。		

(平成28年度) 続き

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方 法(※定量的な検 証ができるこ と。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	
					現状				目標				実績				事業実施 前年度	目標年度												
					年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	単 位	単 位									
横手市 農業再 生協議 会	2	黒川	大豆	収益性の高い大豆 団地の形成 ①団地化と中心的 経営体等への集積 (水稲等からの転 換含む)によりほ 場条件の向上の取 組 ②高性能機械化一 貫体系の導入によ る労働効率向上、 適期作業(中耕除 草・培土)の実施 の取組	販売額の 10%以上の 増加 (12.3%増 加)	27	23,869円/10a	大豆 61.8 ha 水稲 1.3	大豆 73,789 kg 水稲 8,124	大豆 183 円/ kg 水稲 189	-	30	26,815円/10a	63.1 ha	92,442 kg	183 円/ kg	-	29	19,864千円 /10a	大豆 56.57 ha 大豆 86,043 kg 大豆 130.6 円/ kg	-	13,463 円/ kg	8,242 円/ kg	1.633	32,438 円/10a	J A 大豆販売 データより、当 該地区の販売額 を把握(大豆の 現状値は、H23- 27の5中3平均 としている)	290.9	施肥や排水対策、除 草体系を見直し、単収 を向上させることはで きた。 H29.7.22大雨によ る黒川地区の冠水によ り甚大な被害があった ことから、リスク管理 として黒川地区での作 付けを抑制してしまっ ている。 また、米の生産調整 の廃止による米価の下 落が予想されたが、予 想に反し米価が堅調な ため、経営判断により 大豆の栽培面積が伸び 悩んでいるのが現状。 理解を得ながら、適 地を選定し、作付け誘 導を検討したい。	高性能機械化体系の導 入による適期作業により 単収の向上が図られ、目 標達成を達成することが できた。	H30年産の 販売が終 了してお らずH30年 度実績が 確定して いないた め、H29年 度実績を 記載。
			枝豆	機械化一貫体系の 導入による収益性 の高い露地野菜産 地の形成 ①農地集積により 規模拡大の取組 ②高性能機械化一 貫体系の導入によ る労働効率向上、 作付拡大の取組	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) (22.7%増 加)	27	10,973千円	4.89 ha	19,560 kg	561 円/ kg	-	30	13,464千円	6 ha	24,000 kg	561 円/ kg	-	30	19,025円	8.48 ha	26,796 kg	710 円/ kg	-	734 円/ kg	835 円/ kg	0.879	16,724 千円	J A 枝豆販売 データより、当 該地区の販売額 を把握	230.9	単収は目標に達しな かったものの、作付面 積の拡大及び高単価に より目標を達成するこ とができた。